

温室効果ガス削減計画

1 事業の概要

(1) 事業所の名称

株式会社ダイセル 大竹工場

(2) 事業所の所在地

広島県大竹市東栄二丁目1番4号

(3) 業種

1631 石油化学系基礎製品製造業

(4) 事業所位置図

別紙のとおり

2 計画の期間

本計画の期間は、平成30年度を基準年度とし、令和5年度から令和7年度までの3年間とする。

3 計画の基本的な方向

株式会社ダイセルでは、GHG排出量削減の強化を図るため、戦略企画を「サステナブル経営推進室カーボンニュートラル戦略グループ」、実行推進を「カーボンニュートラル戦略委員会」が担っております。

この体制の下、GHG排出量削減目標達成に向けて、現行生産プロセスにおけるGHG排出量削減、エネルギー部門のGHG排出量削減、革新的技術によるGHG排出量削減の3つの切り口で、当社グループ全体で地球環境と共生する循環型プロセスの構築に取り組んでおります。

#### 4 温室効果ガスの排出状況（二酸化炭素換算）

##### 【エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量 (t-CO <sub>2</sub> )	
	基準年度	直近年度
	平成 ( 30 ) 年度	令和 ( 4 ) 年度
二酸化炭素	697, 472	452, 263

##### 【非エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量 (t-CO <sub>2</sub> )	
	基準年度	直近年度
	平成 ( 30 ) 年度	令和 ( 4 ) 年度
二酸化炭素	283, 247	326, 196

##### 【その他温室効果ガス】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量 (t-CO <sub>2</sub> )	
	基準年度	直近年度
	平成 ( 30 ) 年度	令和 ( 4 ) 年度
メタン	238	264
一酸化二窒素	149, 246	134, 997
その他 温室効果 ガス ( HFC ) ( PFC ) ( SF <sub>6</sub> ) ( NF <sub>3</sub> )	1, 005	54

5 温室効果ガスの総排出量に関する数量的な目標

《排出量を削減目標とする場合》

単位：排出量 (t-CO<sub>2</sub>)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度 (平成 ( 30 ) 年度)	削減目標		目標年度 (令和 ( 7 ) 年度)
	排出量 (a)	削減率 (b)	削減量 (c)	排出見込量 (d)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	697,472	54.1	377,517	319,954
非エネルギー起源CO <sub>2</sub>	283,247	(49.7)	-140,708	423,955
メタン	238	(11.0)	-26	264
一酸化二窒素	149,246	10.2	15,253	133,994
その他 温室効果ガス	1,005	94.6	951	54
温室効果ガス 実排出量総計	1,131,209	22.4	252,987	878,222
温室効果ガス みなし排出量	0	-	0	878,222
目標設定の考え方	①各製造プラントにおいて省エネの取り組みを行う ②ボイラー燃料(石炭、廃タイヤ)で廃タイヤの比率を上げる(42%→66%) これによりエネルギー起源CO <sub>2</sub> は減少し、非エネルギー起源CO <sub>2</sub> は増加する			

※ 削減率(b) = (c) / (a) × 100 削減量(c) = (a) - (d)

《原単位を削減目標とする場合》

原単位算定に用いた指標：

単位：排出量(t-CO<sub>2</sub>)，原単位量(kg等)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度 (平成 ( ) 年度)			原単位 削減目標	目標年度 (令和 ( ) 年度)		
	排出量 (a)	原単位 数値 (b)	原単位 (c)	削減率 (d)	排出 見込量 (e)	原単位 見込数値 (f)	原単位 見込 (g)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>				#VALUE!			
非エネルギー起源CO <sub>2</sub>				#VALUE!			
メタン				#VALUE!			
一酸化二窒素				#VALUE!			
その他 温室効果ガス				#VALUE!			
総排出量				#VALUE!			
エネルギー消費原単位 (原油換算kl)	-	-		0.0	-	-	
目標設定の考え方							

※ 削減率(d) = {(c) - (g)} / (c) × 100 原単位(c) = (a) / (b) 原単位見込(g) = (e) / (f)

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置項目及び目標並びに具体的な取組等

○ 温室効果ガスの排出抑制に向けた取組

	項目	数値目標	具体的な取組
1	燃料転換、省蒸気、省電力、蒸気ロス防止	令和7年度目標： GHG排出量 252,987 t-CO2の削減（対平成31年度）	ボイラーでの廃タイヤ混焼率アップ、各プラントにおける省蒸気・省電力・蒸気ロスの再発防止
2			
3			
4			

※ 「原単位」で作成する場合は、数値目標欄の記載例中、「使用量」を「原単位」に適宜読み替えること。

○ 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する取組（環境価値の活用等）

	種類	合計量
1		
2		
3		

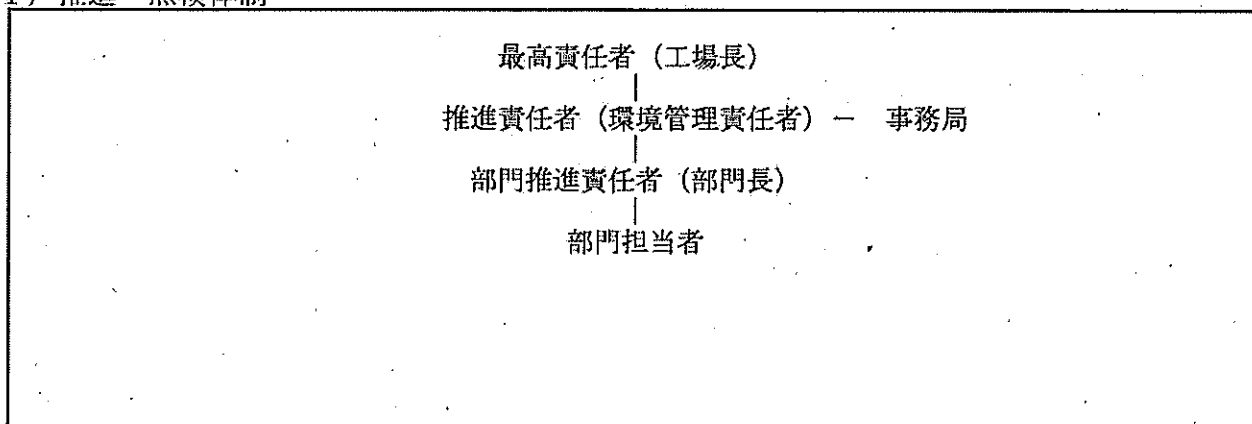
○ その他の取組

	項目	数値目標	具体的な取組
1	廃棄物のリサイクル推進	リサイクル率99%以上	ボイラー廃棄物のセメントリサイクルの推進継続
2			
3			

※ 環境に配慮した実践的な取組などをされていれば記載してください。

## 7 温室効果ガス削減計画の推進並びに実施状況の点検及び評価に関する方法等

### (1) 推進・点検体制



### (2) 実施状況の点検・評価

ISO14001規格に適合した、環境マネジメントシステムプログラムに盛り込んだ活動を行い、内部監査、マネジメントレビューで実施状況を報告する。

### (3) 計画書等の公表

当社のHPなどで公表する。

別紙 事業所位置図

